うきたむ考古通信

2020年10月号

■発行者　うきたむ考古の会
事務局　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　内
〒992－0302　山形県東置賜郡高畠町安久津2117
電話0238－52－2585　Fax 0238－52－4665

館主催事業の報告

第22期考古学セミナー終了

今期も、例年どおり企画展のテーマ『水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形』に沿った講座を、全３回にわたって開講しました。各回の内容は以下のとおりでした。

〈第１回〉9月27日（日）　受講者24名

・「重要文化財　水木田遺跡出土品について」

阿部　明彦　氏（山形考古学会副会長）

水木田遺跡の調査・報告書作成を担当した阿部からは水木田遺跡の発掘調査の概要をおはなしいただいた後、山形県内陸の中期前半の土器は大木式というよりは五領ヶ台式の影響を色濃く受けていたことを指摘されました。また、西ノ前の土偶「縄文の女神」は歩いている姿を表現したものとの新説も述べられました。その後、せっかくに機会でもあることから、受講者の皆様と企画展の展示資料について阿部氏の解説で見学しました。

・「庄内地域の縄文時代中期前半について」

須賀井　新人 氏（(公財)山形県埋蔵文化財センター）

鶴岡市西向遺跡の調査を担当した須賀井氏からは庄内の中期前半は北陸の新保・新崎式、東北南部の大木式、北部の円筒上層式の三者の土器で構成されることが指摘され、特に西向遺跡では北陸系の土器が４分の３を占めるほどの強い影響があったこと、この背景には人の移動もあったのではないかとの考えも述べられられました。

〈第２回〉10 月 11 日（日）　受講者 18 名

・「最上地域の縄文時代中期前半について」

水戸部 秀樹 氏（(公財)山形県埋蔵文化財センター）

中川原 C 遺跡やかっぱ遺跡などの調査を担当した水戸部氏からは最上地域には水木田遺跡、中川原 C 遺跡、西ノ前遺跡、本町遺跡など各地域に拠点的集落があり、かっぱ遺跡や熊の前遺跡などの衛星的な集落も認められること。遺物の出土量も多く大型土器が密集する傾向があること。しかし、状態のいい竪穴住居跡の検出例に乏しく、全体像が掴めていない等のお話しがありました。

・「村山地域の縄文時代中期前半について」

渋谷 孝雄 （うきたむ風土記の丘考古資料館館長）

渋谷館長からは村山地域の当該期の遺跡は 169 ヶ所で、このうち、36 遺跡で発掘調査が行われたり、大量の遺物の出土があること。この 36 遺跡の調査成果について、その概要の説明がありました。

〈第 3 回〉10 月 18 日（日）　受講者 16 名

・「東置賜地域の縄文時代中期前半について」

菊地　政信 氏（日本考古学協会会員）

台ノ上遺跡の調査を担当した菊地氏からは台の上遺跡から出土した未公表資料を持参していただき、台の上遺跡とその出土品についてお話を伺いました。受講者に問い掛ける講義方式は新鮮でした。、

・「西置賜地域の縄文時代中期前半について」

岩崎　義信　氏（長井市教育委員会）

岩崎先生からは長井市宮遺跡、小国町谷地遺跡を中心に、白鷹町も含めた中期前半の遺跡と出土品について詳しくお話を伺いました。

❤秋の遺跡めぐり

秋の遺跡めぐりは 10 月 17 日（土）に開催されました。今年は春に予定されていました宮城県東松島市を訪れました。参加者は 15 名募集に対し 13 名でした。

最初は佐藤敏幸氏の案内で「赤井官衙遺跡」と「矢本横穴」からなる赤井官衙遺跡群へ。

今から 1,300 年ほど前、牡鹿郡を治めるため、朝廷は『牡鹿郡家』という役所を設置しました。また、朝廷は陸奥国（宮城県）北端の辺境の地に、蝦夷支配の政治的・軍事的拠点施設である城柵を設置しました。日本の歴史書である『続日本紀』によると、牡鹿郡にはこれら城柵のひとつである『牡鹿柵』が設置されていたことが分かっています。

古代牡鹿郡を治めていた豪族が道嶋氏です。道嶋氏は飛鳥時代の中ごろ、上総国から朝廷の命令により牡鹿郡に移住してきた丸子氏の一族と考えられています。当時、朝廷はその支配を広めるため、関東地方をはじめ、東北地方以南からさかんに人々を移住させていました。丸子（のちの道嶋）氏は、やがて移住先の集落を役所、または城柵に造り替え、この地を治めるようになりました。これが赤井官衙遺跡と見られています。さらに、一族の墓を集落近くの丘陵に造営したのが矢本横穴墓群です。

これまでの発掘調査で赤井官衙遺跡は丸子･道嶋氏が治めた古代牡鹿郡の役所である『牡鹿郡家』、または『牡鹿柵』と推定されています。さらに、矢本横穴は丸子・道嶋氏をはじめ、牡鹿郡の役所に勤務した役人や関東から移住してきた人々の墓であることが明らかとなっています。

このように、赤井官衙遺跡群は文献史料に記された歴史を考古学的に証明できる非常に重要な遺跡群であり、古代の東北地方の歴史を解き明かす鍵となる貴重な遺跡として今年 11 月に国の史跡に指定するように答申がありました。

宮戸島にわたり大高森観光ホテルでお魚づくしの昼食を摂った後、奥松島縄文村歴史資料館と里浜貝塚へ。館内展示を菅原館長に案内していただいた後、自由行動となりましたが、多くの方は里浜貝塚を見学したようです。里浜貝塚は縄文時代前期（約 6800 年前）から弥生時代中期にかけての集落跡で、保存状態の良好な貝塚が広範囲に残存し、日本最大級の規模（東西約 640m、南北約 200m）を持ちます。その規模や質などから、松島湾沿岸地域の拠点的集落のひとつであったと推定されています。

古くから、多数の縄文人骨や、漁具・装身具などの多彩な骨角器が出土することでも知られており、大正時代にはすでに、考古学の基礎的な方法論に基づいた科学的な発掘調査が実施されました。その後も、多くの研究者や研究機関により調査・研究が進められ、平成７年に国史跡、平成１２年には資料の一部が国の重要文化財に指定されました。

訪れた日には丁度、当館でもお馴染みの岡村道雄先生（奥松島縄文村歴史資料館名誉館長）と鈴木三男先生（東北大学名誉教授）の講演会「丸木舟が運んだ南からの縄文ルーツ」があり、参加者の多くが耳を傾けていました。

佐藤敏幸氏の案内で矢本横穴墓群の見学

大高森観光ホテルでの昼食の様子

奥松島縄文村歴史資料館で菅原館長の説明を聞く

奥松島縄文村歴史資料館の展示の様子

里浜貝塚の見学

製作中の丸木舟と講演する岡村・鈴木の両先生

🗣企画展記念講演会から

令和２年 11 月 15 日「山形県の縄文時代中期前半の文化動態」

講師　　多賀城市教育委員会　　菅 原　哲 文 氏

今年度の企画展講演会は菅原哲文先生の「山形県の縄文時代中期以前半の文化動態」と題する演題で開催されました。

まず、中期前半は遺跡数の大幅な増加、各盆地に拠点的な大集落が形成されること。その拠点的集落には大型住居が建てられること。土器や石器を大量に廃棄した捨て場が形成され、数百箱から千箱を越える遺物が出土し、土偶や石棒を用いる祭祀が盛んとなることなど、この時代の概略からお話しが始まりました。今回は縄文土器を中心に当該期の文化動態を検討するということでした。

東北地方南部の中期前半の土器型式は大木 7a・7b・8a で今回の企画展の中心をなす水木田遺跡の前葉の土器を見ると、大木 7a 式期は関東・中部に分布する五領ヶ台式影響の影響が強く、大木 7b 式の時期は五領ヶ台式に加え北陸の新崎式、北東北の円筒上層ｂ式の土器も見られということです。

庄内では北陸方面の影響が強く、特に鶴岡市の西向遺跡では東北南部の大木７a・ｂ式に加え、一定程度の北東北の円筒上層 a～c 式土器もあるものの北陸の新保・新崎式の土

器が全体の 74%を占めているということでした。飛島の蕨山遺跡でも同じ傾向ということです。大木 8a 式期になると南東北の大木 8a 式が主となり、北陸系の馬高式、円筒上層系とも出土割合は低くなるということです。

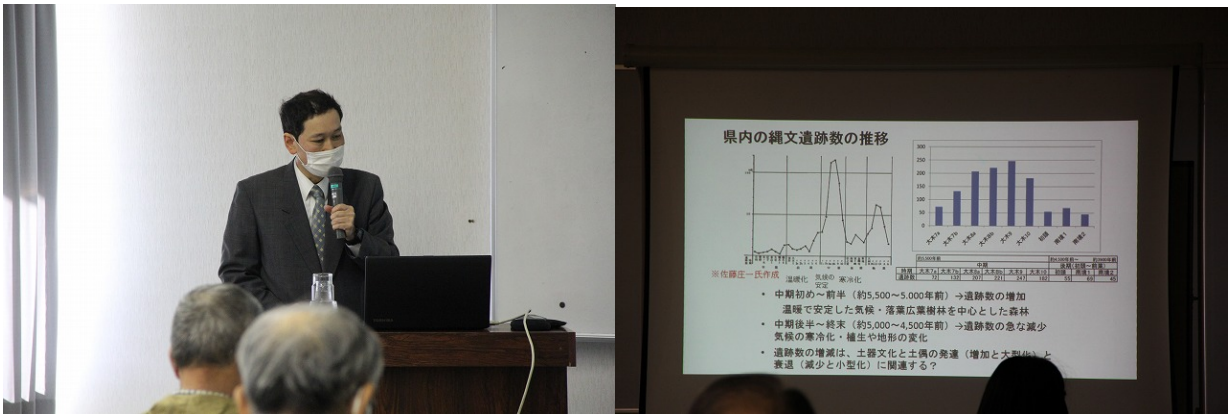
新庄盆地の大木 7b～8a 式期の中川原Ｃ遺跡では大木 7b 式に一部円筒上層式土器と類似するものがあり、西ノ前遺跡には僅かではあるが、五領ヶ台系や新崎式の土器が伴うということでした。

米沢盆地の台ノ上遺跡の大木 7a 式では関東の五領ヶ台式、北陸の新保・新崎の影響を受けた土器の割合が新庄・山形盆地に比べて多く、7b 式には東関東の阿玉台式の影響を受けるが、8a 式期には馬高式土器は伴なわないこと、長井市の宮遺跡では大木 7b 式に北陸系、阿玉台式が伴い、小国町谷地遺跡では 7b 式期は北陸系土器が全体の半数を占め、関東系土器も伴うが、つぎの 8a 式期では北陸の馬高式は少量であるということです。

山形盆地では中期初頭から前葉にかけては五領ヶ台式土器の影響を強く受けた土器が多く、北陸系は僅か、最近の調査で、円筒上層式土器も確認されたということでした。

また。中期に入ると脚がある立像土偶が出現し、7b 式期には大型化が進み「西ノ前型式」が成立し、8a 式期には西ノ前遺跡など山形・宮城の奥羽山脈を挟む地域で盛んに作られるが、米沢盆地では福島県域の影響が強い亜種が主体であるということでした。

最後に①県内の中期初頭から前葉は北陸や関東の土器文化の影響が強く、地域によってその度合いが異なること。②大木 8a 式期に入ると他地域からの影響がなくなるわけではないが、大木式土器文化が強化され、逆に県外地域に景況を与えていくこと。③土偶は県北・県央を中心に「西ノ前型式」が作られ、県南は福島の影響を受けた亜種タイプが存在するというお話しで講演を締めくくられました。



講演の様子１

講演の様子２

❤勾玉・弓矢をつくろう

7月18日に続き、今年度２回目で最後となる勾玉つくり、弓矢つくりが、11月３日（火）文化の日に開催されました。

参加者は大人16名、子ども17名と今年も多くはありませんでした。

❤ガラス玉をつくろう

11月28日（土）に、今年初めてで最後の「ガラス玉をつくろう」の体験講座がありました。18名の参加がありました。

館主催事業の案内

❤コースターをつくろう、古代風ブレスレットをつくろう

今年度最後の体験講座である「コースターをつくろう」、「古代風ブレスレットをつくろう」が12月5日（土）に予定されています。

※コロナ禍の中の今年度最後の体験講座です。３密を避けるため、断念した館行事が多く、会員の皆様にも大変御迷惑をおかけいたしました。

今年度は「うきたむ学講座」の開催を断念いたしましたので、２月14日開催予定の考古資料検討会のみとなりました。

来年は新型コロナを克服し、館行事が滞りなく開催できることを祈っています。会員の皆様もお体にご留意され、いい年をお迎えできますよう御祈念いたします。

東北情報館

コレクション展『米沢藩武士たちの行列―上杉家の参勤交代―』

入館料　　一般／210 円　高校生・大学生／110 円　小・中学生／50 円
12月12日～1月24日　**米沢市上杉博物館**　　TEL：0238-26-8001

『瀬戸焼』

入館料　　一般／500 円　高校生・中学生／200 円
12月12日～1月31日　**東根市公益文化施設まなびあテラス**
TEL：0237-53-0229

『天王山式土器からみた東日本の弥生社会』

入館料／無料　9月15日～12月20日
第 1 会場 史跡古津八幡山弥生の丘展示館　TEL：0250-21-4133
第 2 会場 新潟市文化財センター　TEL：025-378-00480

『蝦夷の赤い甕―最強の蝦夷は和賀川にいた―』

入館料　　一般／500 円　高校生／240 円　小・中学生／170 円
11月1日～3月7日　**北上市立博物館**　　TEL：0197-64-1756

『不来方之城新築之有可候―南部氏の盛岡築城―』

入館料　　一般／200 円　小・中学生／100 円
10月3日～1月24日　**盛岡市遺跡の学び館**　　TEL：019-635-6600

『秋田城と古代貨幣』

入館料　　一般／210 円　高校生以下／無料
12月19日～1月31日　**秋田市立秋田城跡歴史資料館**　　TEL：018-845-1837